

## 環境・農水常任委員会 県外行政調査

1 調査日 平成 28 年 11 月 9 日（水）～11 日（金）

### 2 調査の概要

11 月 9 日（水）

#### （1）岩手県北上浄化センター（岩手県北上市）

調査内容：消化ガス発電および小水力発電について

同センターでは、下水道におけるエネルギーの有効利用のため、平成 22 年から消化ガス発電を、平成 25 年からは小水力発電を行い、センター内で自家消費を行われている。

消化ガス発電については、平成 27 年 11 月に民間事業者と消化ガス発電事業に関する基本協定を締結し、平成 29 年 4 月以降に下水処理工程で発生した消化ガスを民間事業者に売却し、民間事業者は「固定価格買取制度（FIT）」を活用して、センター内に設置する施設で発電事業を予定していることから、下水道エネルギーの有効活用の事例として、同センターの取り組み状況について調査を行った。



#### （2）岩手江刺農業協同組合（岩手県奥州市）

調査内容：キャトルセンターについて

岩手県内での和牛子牛の生産地として発展してきた岩手県奥州市江刺区では、近年、生産者の高齢化等が課題となっていることから、和牛繁殖農家を支える体制づくりのため、生産者から母牛、子牛を預かり、管理育成する施設であるキャトルセンターを平成 18 年 3 月に開設し、子牛等の受け入れを行われている。本県においても、今年度から子牛の安定確保を図るためにキャトルステーション整備推進事業を実施することから、今後の参考とするため、キャトルセンターの現状や課題について調査を行った。



11月10日（木）

（3）住田町（岩手県気仙郡住田町）

調査内容：「森林・林業日本一のまちづくり」の取り組みについて

同町では「森林・林業日本一のまちづくり」を掲げて、川上から川下までの林業振興を進めるために、木材加工を担う木工団地の整備などに取り組まれている。また、地域住民に森林・林業を理解してもらうことが重要として、森林・林業教育の推進に取り組み、平成26年度に完成した役場新庁舎を始めとする多くの公共建築物を木材で建築されていることから、本県の森林施策の参考とするため、同町の取り組みについて調査を行った。



（4）岩手県林業技術センター（岩手県紫波郡矢巾町）

調査内容：林業振興のための技術開発および人材育成について

同センターでは、「いわて型チップボイラー」を開発、実用化するなど、木質バイオマスエネルギー利用の推進を進めており、その他にも、地域で産するアカマツを利用したCLT建材（直交集成板）の開発にも取り組むなど、森林資源を活用するための研究、開発を行っている。

また、林業の担い手、後継者等の育成にも取り組んでいることから、本県の森林施策の参考とするため、同センターの取り組みについて調査を行った。



11月11日（金）

（5）農林総合研究所（青森県黒石市）

調査内容：農林総合研究所の概要について

    水稻品種の開発の取り組みについて

同研究所は、青森県の地域産業振興のための研究、技術相談等を行う地方独立行政法人青森県産業技術センターの農業部門を所管する施設として、様々な農産物の研究開発の推進と技術の普及に努められている。

国内での知名度の高い良食味米間での競争が激しくなる中で、同研究所で開発した「青天の霹靂」は平成27年度にデビューし、食味ランキングで青森県産としては初の「特A米」となるなど、良食味米の開発に取り組まれている。

また、低アミロース米や紫黒米などの新形質品種や飼料品種、米づくりの低コスト化・省力化・軽労化のための直播向け品種などの開発に取り組む、多様な需要に対応されていることから、本県の水稲施策の参考とするため、当研究所における取り組みについて調査を行った。

